

## 令和6年度第1回 江別市子ども・子育て会議要旨

日 時：令和6年4月22日（月）14時～

場 所：江別市民会館37号室

出席者：江別市子ども・子育て会議委員10名

藤野友紀会長、石塚誠之委員、岡幸代委員、金子大吾委員、久保田直樹委員、齋藤奈緒子委員、佐藤一希委員、高橋祐子委員、松本和也委員、八木橋源委員  
江別市（事務局）7名

金子子ども家庭部長、深見子ども家庭部次長、  
気境子育て支援課長、浅木子ども育成課長、  
須藤子ども育成課給付係長、本田子育て支援課子育て支援係長、  
小林子育て支援課子育て支援係主査

傍聴者：なし

### ○次第

- 1 開会
  - 2 委嘱状交付
  - 3 委員の紹介
  - 4 部長挨拶
  - 5 議事
- （1）報告事項

議題1 第3期江別市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果について

### ○藤野会長

それでは早速ですが、次第5 議事（1）報告事項、第3期江別市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果について、事務局から説明をお願いいたします。

### ○気境課長

それでは、第3期江別市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果についてご説明いたします。

この調査は昨年12月の子ども・子育て会議において、委員の皆様よりたくさんのご意見をいただきながら、調査票を完成させ、今年の1月から2月にかけて実施したものです。

それでは、資料1をご覧願います。

今回の調査結果をまとめた報告書案になりますが、報告書の構成としましては、就学前の子どもがいる世帯を対象とした調査結果がひとつと、もうひとつ小学生の子どもがいる世帯を対象とした調査結果の大きく、2本立てとなっております。

資料を開いていただきまして、目次の部分で見ていただきまして、3 ページから 64 ページまでが就学前、65 ページから 98 ページまでは小学生についての調査結果内容となっております。また、99 ページからは、資料編ということで、実際使用した調査票と、設問ごとの単純集計結果を合わせたものになりますので、こちらにつきましては、参考として後程ご確認くださいと思います。

それでは資料の 1 ページ目をご覧ください。

ホチキス止めの資料の中で、数字が入っていなかった部分がありましたので、差し替えの資料を同封させていただいておりますので、1 ページ 2 ページについては、差し替えの資料をご覧くださいと思います。

調査結果の概要でございます。

1 の調査目的、2 の調査の種類と実施方法につきましては、資料に記載の通りでございますので、ご確認ください。3 の配布と回収状況については、就学前子ども、小学生とも、紙よりも Web 回答での回答が多い結果となっております。

就学前子どもの保護者からは、769 件回答があり、回収率は 51.3%。小学生の保護者からは、696 件回答があり、回収率は 46.4%となりました。

次に、2 ページ目、4 の調査結果の見方につきましても、こちらの資料に記載の通りでございますが、この調査につきましては、子ども・子育て支援事業計画策定の基礎資料として実施する調査でございますので、この計画が 5 年ごとの見直しとなっているため、今回 3 回目の見直しとなります。ですので、5 年前と 10 年前にも同様の調査を実施しておりますので、多少設問が変わっているものもありますけれども、過去と同じ項目で比較が可能なものについては、平成 30 年、平成 25 年のデータについても、グラフの中で比較できるようにしております。

それでは、調査結果の内容ですが、3 ページからは、まず就学前調査の結果になります。

ポイントだけをご説明して参ります。

まず問 3、お子さんの人数については、「2 人」が 47.2%と最も多く、次いで「1 人」が 29%となっております。前回平成 30 年度の調査結果との比較では、「2 人」という回答が 8.3 ポイント増加しております。

次に 5 ページ、問 6、子育てを主に行っている人は、「父母ともに」、が 61%と最も多く、次いで、「主に母親」が 38.2%となっております。前回調査との比較では、「父母ともに」が 7 ポイント増加しており、その前の平成 25 年の調査と比較しても増加しております。

次に 6 ページ、問 8、子育てに影響すると思う環境については、「家庭」という回答が 95.8%と最も多く、次いで「保育園」が 37.8%、「地域」が 36.9%、「認定こども園」が 36.5%となっております。前回調査との比較では、「幼稚園」が 10.3 ポイント減少しています。「幼稚園」、「保育園」、「認定こども園」の合計は、前回 30 年に実施しましたもの、また前々回、平成 25 年度に実施したものと比較しても大きな差は見られません。

次に問 9、お子さんを見てもらえる親族・知人は、「緊急時もしくは用事の際には、

祖父母等の親族に見てもらえる」が、64.8%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族に見てもらえる」が、25.6%となっております。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に7ページ、問9-1、お子さんを祖父母に見てもらえると回答した方の、祖父母等の親族に見てもらう状況では、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもを見てもらえる」が、53.7%と、最も多くなっております。こちらも前回の調査との比較でも大きな差は見られません。

次に8ページ、問9-2、お子さんを友人・知人に見てもらえると回答した方の、友人・知人に見てもらえる状況では、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもを見てもらえる」が54.5%と、最も多く、前回調査との比較では13.3ポイント増加しております。

次に10ページ、問10(2)、子育てについて、家庭で気になっていることは、「経済的な負担が大きい」は54.7%と最も多く、次いで「子どもの健康的な発育や成長」が47.9%、「子どもの医療や福祉のこと」が40.6%となっております。前回調査との比較では、「経済的な負担が大きい」が、15.3ポイント、「時間的な制約が大きい」は13.8ポイント増加しています。

次に11ページ、問11、相談先は、「祖父母等の親族」が80.5%と最も多く、次いで「友人や知人」が64.6%となっております。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に13ページ、問13、母親の就労状況は、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休暇中ではない」が、31%と最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休暇中ではない」が、27.1%。「以前は就労していたが、現在は就労していない」が、26.1%となっております。前回との比較では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が、9.8ポイント減少しています。

次に14ページ、問13-1、母親の平均就労日数は「5日」が59%と最も多くなっており、前回調査との比較でも大きな差は見られません。母親の平均就労時間は、「8時間」が31.4%と最も多く、次いで「6時間」は17.1%、「5時間」が15.7%となっております。前回調査との比較では、「8時間」が7.2ポイント増加しています。

次に16ページ、問13-3、パート・アルバイト等で就労していると回答した方の、フルタイムへの就労希望につきましては、「パート・アルバイト等の就労を続ける」が52.3%と最も多くなっております。こちらも前回調査との比較でも大きな差は見られません。

問13-4、就労していないと回答した方の就労希望は、「一番下の子どもが□□歳になった頃に就労したい」が47.1%と最も多くなっております。前回調査との比較では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が8.1ポイント増加しています。

17ページ、「一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」と回答した方の、この□□の年齢は、「3歳」が33.7%と最も多く、次いで「7歳」以上が27.6%、「4歳」が15.3%となっております。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に、飛びまして 23 ページ、問 15-1、利用している教育保育事業は、「認定こども園」が 41.2%と最も多く、次いで、「認可保育園」が 31.1%、「幼稚園」が 22.5%となっています。前回調査との比較では、「幼稚園」が 26.1 ポイント減少しています。

次に 24 ページ、25 ページ、問 15-2、利用状況、利用希望は、日数においては、「5日」の現在は 93.1%、希望が 94.2%、時間においては、「8時間」の現在が 18.2%、希望が 20.4%となっており、現在、希望ともに、「8時間」が最も多くなっています。いずれも前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に 26 ページ、問 15-3、教育・保育事業を利用している理由は、「就労しているため」が 60.1%と最も多く、次いで「子どもの教育や発達のため」が 34.5%となっており、前回調査との比較では、「就労しているため」が 12.1 ポイント増加しています。

次に 27 ページ、問 15-4、教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため（□歳になったら利用しようと考えている）」が、43.2%と最も多く、次いで、「保育園などに空きがない」が、26.7%となっています。前回調査との比較では、「利用する必要がない」が、6.3%減少し、「保育園に空きがない」が、5.1 ポイント増加しています。「子どもがまだ小さいため（□歳ぐらいだったら利用しようと考えている）」と回答した方の□に当てはまる子どもの年齢は、「3歳」が 60.3%と最も多く、次いで、「1歳」が 22.2%となっています。前回調査との比較では、「3歳」は 10 ポイント増加し、「4歳」が 5.2 ポイント減少しています。

次に 28 ページ、問 16、定期的にご利用したいと考えている教育・保育事業は、「認定こども園」が 54%と最も多く、次いで、「認可保育園」が 44.1%、幼稚園が 40%となっています。前回調査との比較では、「幼稚園」が 14.6 ポイント減少しています。

次に 29 ページ、問 17、地域子育て支援拠点事業の利用状況は「利用していない」が、62%となっています。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に飛びまして 34 ページ、問 22-1、お子さんの病気やケガによって事業が利用できなかったときの対処方法は、「母親が休んだ」が 83.2%と最も多く、次いで「父親が休んだ」が、38.7%、「親族・知人に子どもを見てもらった」が、30.4%となっています。前回調査との比較では、「父親が休んだ」が、19.5 ポイント、「母親が休んだ」が 12.2 ポイント増加しています。

次、また少し飛びまして 42 ページ、43 ページ、問 26、就学後の放課後に希望する居場所は、【1年生から3年生までの間】では、「自宅」が 60.7%と最も多く、次いで「放課後児童クラブ」が 56.4%、「習い事」が 37.4%となっています。前回調査との比較では、「児童センター・児童館」が 13.9 ポイント、「自宅」が 12.7 ポイント増加しています。【4年生から6年生】までの間では、「自宅」が 74.2%と最も多く、次いで「習い事」が 45.4%、「放課後児童クラブ」が 25.2%となっています。前回調査との比較では、「自宅」が 22.2 ポイント、「児童センター・児童館」は 15.1 ポイント増加しています。

次に 50 ページ、問 28-1 (1)、母親の育児休業後の職場復帰は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 74.7%と最も多く、次いで「現在も育児休業中である」が 16.8%、「育児休業中に離職した」が 7.9%となっています。前回調査との比較では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が、9.9 ポイント増加し、「現在も育児休業中である」が 8.5 ポイント減少しています。

次に 51 ページ、問 28-2 (1)、母親の育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間は、実際の期間は、「子どもが 1 歳になったら」が 53.1%と最も多く、希望期間も 49.6%と最も多くなっています。前回調査との比較では、実際では「0 歳」が 11.7 ポイント増加しています。

次に 52 ページ、問 28-3 (1)、母親の希望より早く職場復帰した理由は、「希望する保育園に入るため」が 68.7%と最も多く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が、35.2%となっています。前回調査との比較では、「希望する保育園に入るため」が 9.7 ポイント、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が、6.3 ポイント増加しています。

次に 53 ページ、問 28-4 (1)、母親の職場復帰時の短時間勤務制度の利用は、「利用した」が、48.4%と最も多く、次いで、「利用する必要がなかった」が 27.2%、「利用したかったが、利用しなかった（できなかった）」が、23.6%となっています。前回調査との比較では「利用した」が 7.3 ポイント、「利用する必要がなかった」が、5.1 ポイント増加しています。

次に 54 ページ、問 29、「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望については「利用したい」が 80.7%。「利用したいと思わない」が 15.8%となっています。また、利用したい理由については、「自分のリフレッシュのため」が 79.3%、「同世代の子ども同士の交流のため」が 77.2%、「育児の不安や孤立感の解消」は 59.8%となっています。

次に 55 ページ、問 29-1、「こども誰でも通園制度（仮称）」をどの程度利用したいかについては、「曜日や時間を固定せず、月 10 時間の範囲内で自由に利用したい」が 50%で最も多く、次いで「毎週 1 回定期的に利用したい」が、28.3%となっています。

次に 58 ページ、問 31、地域の子育て環境や支援の満足度は、中間の「3」が 44%と最も多く、次いで「4」が 28.5%、「2」が 15.1%となっています。前回調査との比較では、平均値を比べると、満足度に大きな差がありません。

次に 59 ページ、問 32、子育てに関する情報の入手先は、「保育園、幼稚園、学校」が 68.1%と最も多く、次いで、「隣近所の人、知人、友人」が 54.9%、「インターネット（市以外のホームページ）」が 46.3%となっています。前回調査との比較では、「インターネット（市以外のホームページ）」が 7.2 ポイント、「インターネット（市のホームページ）」が 5.9 ポイント増加。「市の広報やパンフレット」が 6.5 ポイント、「コミュニティ誌」が 5.2 ポイント減少しています。

次に 60 ページ、問 33、子育てに関して欲しい情報は、「公園等の遊び場の情報」が 68.7%と最も多く、「次いで子ども向けのイベント情報」が 68%、「子ども連れで

行きやすい飲食店情報」が 63.1%となっています。前回調査との比較では、「子どもに優しい、子育てしやすいまちに関する情報」「小学校や中学校の紹介・特徴」が各々9.5ポイント、「医療機関情報」が 8.6ポイント増加しています。

次に 61 ページ、問 34、近所とのつき合いでは、「挨拶程度」が 79.6%と最も多く、次いで、「立ち話をする程度」は 47.1%、「子どもを通じての交流がある」が、28.3%となっています。前回調査との比較では、「挨拶程度」「立ち話をする程度」というのが、各々5.7ポイント増加しています。

次に 62 ページ、問 35、家の近くの遊び場について感じることにについては、「雨の日に遊べる場所がない」が 41.2%と最も多く、次いで、「遊具などの種類が充実していない」が、29.1%、「遊具などの設備が古くて危険である」が 19%となっています。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に、63 ページ、問 36、子育てしやすいまちになるために重要だと思うことは「保育所・放課後児童クラブなどの整備」が 45.8%、「保育所や幼稚園の費用や教育費の負担軽減」が 45.5%、「小児救急医療体制の充実」が 43.2%となっています。前回調査との比較では、「交通事故や不審者などから、子どもを守る安全安心の取り組みの推進」が 18.4ポイント、「いじめや差別をなくす教育の推進」が 10.1ポイント減少しています。

次に 65 ページから「小学生調査」の結果となります。

まず 66 ページ、問 5、子育てを主に行っている人は、「父母ともに」が 57.3%、次いで「母親」が 40.5%となっております。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に 67 ページ、問 6、お子さんを見てもらえる親族・知人は、「緊急時、もしくは用事の際には祖父母等の親族に見てもらえる」が 61.6%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族に見てもらえる」が 26%となっています。前回調査との比較では、「緊急時、もしくは用事の際には見てもらえる友人・知人がいる」が 5ポイント減少しています。

次に 69 ページ、問 7 (2)、子育てについて家族で気になっていることは、「経済的な負担が大きい」が 55.3%で最も多く、次いで「子どもの医療や福祉のこと」が 45.7%、「子どもの健康的な発育や成長」が 37.1%となっています。前回調査との比較では、「経済的な負担が大きい」が 10.2ポイント、「子どもの健康的な発育や成長」が 8ポイント増加しています。

次に 70 ページ、問 8、相談先は、「祖父母等の親族」が 73.7%と最も多く、次いで「友人や知人」が 64.7%となっています。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に 72 ページ、問 10、母親の就労状況は、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 44.8%と最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 29.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 19.6%となっています。前回調査との比較でも大きな差は見られません。

次に 76 ページ、問 10-4、就労していないと回答した方の、就労希望は、「すぐにも、もしくは 1 年以内に就労したい」が 41.2%と最も多くなっています。前回調査との比較では、「一番下の子どもが、□歳になったところに就労したい」が 18.3 ポイント減少しています。「一番下の子どもが□歳になったところに就労したい」と答えた方の□に当てはまる年齢は、「7 歳以上」が 69%と最も多く、次いで「3 歳」が 17.2%、「6 歳」が 6.9%となっています。前回調査との比較では、「7 歳以上」が 14.5 ポイント増加しています。

次に、81 ページ、問 12、就学後の放課後に希望する居場所は、【1 年生から 3 年生までの間】では、「自宅」が 68.2%と最も多く、次いで「習い事」が 40.4%、「放課後児童クラブ」が 30.6%となっています。前回調査との比較では、「習い事」が 20.2 ポイント減少しています。【4 年生から 6 年生までの間】では、「自宅」が 82.3%と最も多く、次いで「習い事」が 51.6%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 20.4%となっています。前回調査との比較では、「自宅」が 24.9 ポイント増加しています。

次に飛びまして、92 ページ、問 17、地域の子育て環境や支援の満足度は、中間「3」が 44.4%と最も多く、次いで、「4」が、22.6%、「2」が 17.8%となっています。前回調査との比較では、平均値を比べると、満足度に大きな差は見られません。

次に 93 ページ、問 18、子育てに関する情報の入手先は、「隣近所の人、知人、友人」が 58.5%と最も多く、次いで、「保育所、幼稚園、学校」が 53.9%、「市の広報やパンフレット」が 39.4%となっています。前回調査との比較では、インターネットが 6.6 ポイント増加、一方、「隣近所の人、知人・友人」は 8.3 ポイント、「保育所・幼稚園・学校」は 6.3 ポイント、「コミュニティ誌」は 6 ポイント、「市の広報やパンフレット」は 5.2 ポイント減少しています。

次に、94 ページ、問 19、子育てに関して欲しい情報は、「医療機関情報」が 53.7%、「子ども向けイベント情報」が 53.3%、「公園等の遊び場の情報」は 45.3%となっています。前回調査との比較では、「小学校や中学校の紹介・特徴」が 10 ポイント、「医療機関情報」が 8.9 ポイント、「公園等の遊び場の情報」が 7.2 ポイント増加しています。

次に、95 ページ、問 20、近所等のつき合いの程度は「挨拶程度」が 79.6%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が 48.9%、「子どもを通じての交流がある」が 31%となっています。前回調査との比較では、「挨拶程度」が 7.3 ポイント増加、「子どもを通じての交流ある」が 8.6 ポイント減少しています。

次に 96 ページ、問 21、家の近くの遊び場について感じていることは、「雨の日に遊べる場所がない」が 53.9%と最も多く、次いで、「遊具などの種類が充実していない」が 26.6%、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が 14.1%となっています。前回調査との比較では、「雨の日に遊べる場所が少ない」が 6.9 ポイント、「いつも閑散としていて寂しい感じがする」は 5.8 ポイント減少しています。

最後に 97 ページ、問 22、子育てしやすいまちになるために重要だと思うことは、「小児救急医療体制の充実」が 41.1%と最も多く、次いで「道路や公園など子どもが安心して暮らせる環境の整備」が 38.9%となっています。前回調査との比較では、

「小児救急医療体制の充実」が7.2ポイント増加、「保育園や幼稚園の費用の負担軽減」が25.2ポイント、「交通事故や不審者などから子どもを守る安全・安心の取り組みの推進」が17.3ポイント減少しています。

以上、長くなりましたけれども、ニーズ調査結果の報告書案の概要でございます。

このニーズ調査の結果を用いて、今年度、第3期江別市子ども・子育て支援事業計画を策定していくこととなります。

策定に当たりましては、こちらの子ども・子育て会議でご審議していただく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

### ○藤野会長

はい。ありがとうございました。

ただいまのニーズ調査の結果報告案について委員の方から質疑がございましたらお願いいたします。

### ○岡委員

お世話になってます。

子育て支援ワーカーズきらきらで広場などをやっておりますので、これを見たときに、29ページ、地域子育て支援事業の利用についてのところで、問17で「利用してない」が6割を超えていたり、問18で「新たに利用したり、利用日数を増やしたいと思わない」が6割に近くあったりで、衝撃を受けたのですが、これを読み取っていくと、3ページのところで、お子さんの年齢が問2で出ているかと思いますが、未就学のお子さんへの、アンケートかと思いますが、0・1・2歳という、保育園に行っていないお子さんというのは3割だと思います。

保育園に行っているか行っていないかで、地域の子育て支援拠点事業の利用というのは大きく変わるのだらうと思います。

それでなぜこれが6割も利用してないというのがあるかということ、保育園に行っている人達が6割、7割あたりくらいで3割しか、0・1・2歳のお子さんが家で過ごしていないのではないかと見受けました。

なので、これで策定されるというのが少し不安に思い、年齢で分けていただきたい、という提案をいたします。

### ○気境課長

ありがとうございます。

今回、こちらの報告書案については、実際このアンケートを集計したものを少し見やすい形に取りまとめしていますが、もともとの調査票自体は、実はこのような報告書として上げるものとしてよりも、今後の計画作るときの数量の見込みを出すための基礎資料にしようとしております。

それで実際データとしては年齢ごとですとか、家族の、例えばこれから家族類型

という形で、お父さんお母さんの属性、例えばひとり親ですとか、両親共働きですとか、専業主婦ですとか、そのような家庭ごとに累計をして、この推計をかけて、実際そのような家庭にどれくらい子どもがいて、今回調査結果で、その人たちがどのように回答しているのだろうかという、バックデータの数字を使って、数字を検索、数字を作っていく形になるので、年齢ごとも、同じように、各階層の年齢ごとのデータごとで、どのような年齢の人たちが、これを使いたいと回答しているかというの、それはバックデータとして、今後量の見込みを出すときに、活用していくつもりでおります。確かにこの結果だけで見ると、利用していないという、すべて年代が0歳から6歳まで含まれた形で利用していないという形が出てきているのか、という部分あると思いますが、実際この子育て支援拠点事業どれくらい利用したいというニーズがあるのかなという把握する部分では、バックデータとして、何歳のお子さんがある家庭で、これを利用したいとか利用したくないと答えているところを元に、算出していくつもりでおります。

ここの部分だけ、例えば何歳のお子さんいるご家庭がどのように答えているか、というデータがあった方が、これが見えた方がわかりやすいということですよ。

#### ○岡委員

そうですね。バックデータから出されるのは、もちろん大変いいと思いますが、この結果がこのまま載りますよね。

一見して、江別市の状況はこうなのだと見る人もいるわけですよ、この資料で。その時に、3ページの年齢層と、27ページで、「子どもがまだ小さいために利用していない」と、照らし合わせてこの結果を読み解いてくださる方が、どれだけいるのかと思いました。

#### ○気境課長

わかりました。修正するように調整したいと思います。追加資料という形で、わかるような内容にしたいと思います。

#### ○金子委員

資料を展開するものということでしたので、少し内容というよりは記載について確認したかったのですが、一点気付いたのが21ページ、問14-4、必要な就労希望というところで、平成30年と25年のところに33.3と、22.2というのがあるのですが、これ凡例がない色になっています。

これは何を表しているのかがわからなくて、もしかしたらこのようなものが他にもあるのではないかなと。資料として、これだと不備があるのかと思いましたので、少し見直したほうがいいと思います。ちなみに、これは何かわかりますか。

#### ○気境課長

前回31年度の資料もありましたが、こちらに持ってきていないので、すぐにはわ

かりません。後で確認しておきます。

上の 14-3 の、凡例の無回答にその色が使われていますので、おそらく無回答ではないだろうかと思いますが、確認します。

#### ○石塚委員

27 ページの 15-4 で「教育・保育事業を利用していない」というところで保育園などに空きがないというのが、令和 5 年で増えているようなお話があり、ただこれまでの会議の充足状況とか、保育園の定数等々お話を聞くと、希望する保育園に空きがないということなのか、保育園等ということなので、それ以外の理由があるのか、ということをし少し考えながら見ていました。何かお考え等があれば、資料から見えてきているものがあれば教えてください。

#### ○金子部長

正確なことは、アンケートを見てもわからないのですが、実際、今江別市では、国が提示するどこの保育園も空いておらず入れないという状態の待機児童というのは、ほぼゼロに近い形で今推移していますが、よく言われる潜在的待機児童ということもあります。自分が希望する保育所には入れなくて、やむなく、他の保育所ですとか、あるいは保育園に入れなくて、幼稚園と認定こども園の教育の部分に入って、預かり保育を利用しながら通っているとか、そのような実態はまだありますので、そのようなことも踏まえて、このような回答に出てきた部分が結構あるのかと推測はしております。

以上です。

#### ○石塚委員

私もこれまでの充足状況とか定数の話を聞いていて、すごくここにフィーチャーすると保育園の空きがないのかと捉えられるのかと思うのですが、それ以外の状況もあるのかと思うので、少し丁寧に見ていくといいのかと思ったのがありました。

幼児さんと就学の間で、どのような過ごし方をしたいのか、というデータの中で、41 ページでしょうか。あと、就学後でいうと 42 ページですが。問 26 の「就学後の放課後に居場所として希望する場所」の中に、「放課後児童デイサービス」が 9.8% となっており、前のデータが無いのはおそらく質問項目がなかったからですね。9.8% という数を見ると思ったよりも、児童センターとか児童館、同じ位というのは、思ったよりこの数値が大きい地区だと思っており、発達とか、特性が強いお子さんの居場所も、これから就学前のお子さんも含めてですが、非常に大事だと思い見ていました。

以上です。

#### ○金子委員

59 ページの子育てに関する情報入手先というところで、市以外のホームページ、インターネットというのがとても多い数字だという感じに見えたのですが、この結果を見て、どう思われたのか知りたいと思いました。色々な情報があると思いますが、これで良いと思っているのか、少し芳しくないと思っているのか、そのような感覚の部分を知りたいと思い質問させていただきました。

### ○気境課長

紙ベースよりも、インターネットだとか、Web 的なものから、情報収集される方が、増えていると率直に感じまして、その上で市のホームページよりも、市外のホームページというところで、市のホームページだけで網羅できない部分もあると思いますので、そのような市外のホームページともうまく、リンクするような形で、すべてが情報で繋がって、見られるような形になるともっといいのではないかと率直に感じました。

### ○金子委員

ありがとうございます。

気にしていたのは、正しくない情報というのものもあるのかというのが、すごく気になっていて、「自分はここで見ているからいい」という人に実際に会ったことがあるので、少し怖いなというのがありましたので、こういうところ見ればいいよ、というように推奨するとか、それをやっていいのかどうかもありますけれども、何かこう、ただ見るだけでいいものなのかというのがあったので、その辺を考えるとというのが必要かと思いました。

ありがとうございます。

### ○藤野会長

他いかがでしょうか。

では私から 1 点ですが、16 ページの問 13-3、母親のフルタイムの就労希望のところですが、数値の記述がありまして、どの問においても、特徴的なところを記述されている報告書でわかりやすいと思いますが、この問 13-3 に関しては「パート・アルバイト等の就労を続ける」という、回答のパーセンテージに注目して、それが大きな差がないという総括になっていると思います。

確かに、そこに注目するとそうですが、その上ですね、「フルタイムの就労希望があるが実現できる見込みはない」というところが、前回調査、或いは前々回調査から漸増しているというところが、このデータの特徴なのかと私はとらえました。

おそらく他の項目を見ると、前回と比べて増えたときにも減ったときにも、5.0% を基準にして、それ以上増えていたりそれより、それ以上減っていたりしたときに、特徴として出しているのかと推測しました。

その場合だと、前々回、前回調査に比べて、4%になっているので、ここは取り上げられていないとは思いますが。でも傾向として見ると、やはりこの質問の設定の

趣旨から言っても、就労希望があるが実現できる見込みがないというところが、毎回の調査において増えているというところが、結構重要なポイントかと思えますので、その辺もくみ取るといいのかと感じました。以上です。

#### ○気境課長

今いただいたご意見の通り修正する形で、そこが見える形で、調査結果を分析しました、という形で加えたいと思います。

#### ○藤野会長

他はいかがでしょうか。

では、概ね質問と出尽くしたようですので、次第6その他に入りたいと思います。

### 6 その他

#### ○藤野会長

その他について委員の皆さんから何かございますか。よろしいですか。

特になければ、事務局から何かございますか。

#### ○気境課長

まず、今日この会議でいただきましたご意見等につきまして、意見を踏まえた形で修正し、報告書を完成させたいと考えております。

あと次回の会議の日程ですが、冒頭で部長の方からも話がありました通り、今年度、計画見直しの本丸の年度ということで、開催回数が増えてくるかと思えます。

最初の骨格案というかスタンスを作るまでに、若干、現状の分析とか時間を要しますので、次回の会議開催につきましては、6月末か7月頭ごろの時期に開催を予定しております。その後は隔月開催のような形になるかと思えますが、現在の予定としては、6月末から7月頭ごろに、今年度第2回目の開催を考えておりますので、会議が近くなりましたら、またご案内させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

#### ○金子部長

すいません。もうひとつ。

先ほどの資料で、こども誰でも通園制度の関係、今回の調査で、簡単な質問を設けるということで前回、ニーズ調査の検討をいただいたときに皆さんお話ししましたが、その結果が出ていますので、見ていただいて。

54ページ、こども誰でも通園制度の事業規模という設問の結果が書いてあります。

前の会議でお話したように、「こども誰でも通園制度」今、盛んにマスコミで報じられていますが、細かい制度設計がこれからということで、令和6年度と7年度はモデル事業を全国で実施しながら、どのような制度設計にするか国で検討し、令和

8年度から制度としてスタートしたいと国は言っています。

細かくは決まっていませんでしたので、今回の調査の質問では、「詳しく決まっていますが、こういう制度利用したいと思いますか」という簡単な質問になっていますが、思った以上に「利用したい」という回答が多いという印象を受けています。

保育に関わる方々、先生方もそうだと思いますが、保育士不足の状況で本当にこれがどの程度できるか、それから施設的なことも含めて、非常に不安があるという声がたくさん出ています。ただ、利用をするほうは、こういったニーズがあるってことは、今回の質問でもある程度見えてきたので、やはりここに対応していかざるを得ないと考えています。

2年間準備期間がありますので、どのような形でできるのか、きちんと検討して、ある程度ニーズにこたえつつ、保育士の人材確保など厳しいところにも配慮しつつ、どのようなやり方ができるか、ということ、またこの皆さんにご意見いただいたりすることもあると思います。

またいろいろな情報が出てきましたら、お伝えしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○藤野会長

ありがとうございます。

委員の皆さんよろしいでしょうか。

#### 7 閉会

#### ○藤野会長

それでは、今回予定している事項についてはすべて終了いたしました。

以上で令和6年度第1回江別市子ども・子育て会議を終了いたします。

皆さん、お疲れ様でございました。